

平成 1 年度 卒業論文

濱島研の論文フォーマット

東北大学大学院工学研究科（卒論：東北大学工学部）

電気・通信工学専攻（卒論：電気工学科）

濱島研究室

A TB1234

氏名

平成 年 月 日

目次

記号表	ii
第1章 はじめに	1
第2章 原理	2
2.1 数式の書き方	2
第3章 実験方法	3
3.1 実験装置	3
3.1.1 図の貼り方	3
第4章 実験結果	4
4.1 クエンチ特性	4
4.1.1 外部変動磁場印加なしの場合	4
4.1.2 外部変動磁場印加ありの場合	4
第5章 まとめ	5
謝辞	6
参考文献	7
付録	8
A.1 付録の付け方	8

記号表

T_c 臨界温度

J_c 臨界電流密度

B_c 数式モードでは、すべて斜体になるので、`{\rm }` を使うこと。

第1章 はじめに

濱島研論文フォーマット「はじめに」で使う技は、多分文献引用でしょう。こんな感じでお願いします [1]。論文雑誌の略称は、いろいろな論文読んで勉強してください。

第2章 原理

2.1 数式の書き方

$$\nabla \times \boldsymbol{E} = -\frac{\partial \boldsymbol{B}}{\partial t} \quad (2-1)$$

$$\nabla \times \boldsymbol{B} = \mu_0 \boldsymbol{J} \quad (2-2)$$

$$\nabla \cdot \boldsymbol{E} = \frac{\rho}{\epsilon_0} \quad (2-3)$$

式 (2-1)、(2-2)、(2-3) は、マクスウェル方程式を表している。この式で使われているコマンド `\vct{}`、`\rot{}`、`\dfrac{ }{ }`、`\pt`、`\myu`、`\ep` は作成済み。

表組みは表 2-1 のような感じで。

半径	領域
$0 < r \leq a$	超電導体内
$a < r \leq d$	外部 (真空)

表 2-1: 表組の例

第3章 実験方法

3.1 実験装置

3.1.1 図の貼り方

挿入する図は、eps ファイルで作成する。任意のページからリファレンス可能 (図 3-1) です。

図 3-1: 図のサンプル

また、部分的に 2 段組にして挿入する場合は、`\minipage` 環境を使います。このとき、`\figure` 環境の中に `\minipage` 環境を入れるようにする必要があります。

このように、部分的に 2 段組も可能です。紙面を有効に活用して、読みやすい論文にしてください。`\minipage` では、段落替えのときの字下げがうまくいきません。`\hspace*{1zw}` というコマンドを使ってください

図 3-2: 2 段組で図の挿入

第4章 実験結果

4.1 クエンチ特性

4.1.1 外部変動磁場印加なしの場合

4.1.2 外部変動磁場印加ありの場合

第5章 まとめ

謝辞

本論文を結ぶにあたり、このように興味深く研究テーマを与えて下さり、かつ暖かくご指導下さいました、濱島高太郎教授に深く感謝いたします。

その他好きなだけ書いてください。

参考文献

- [1] T.Hamajima : IEEE Trans. Appl. Supercond. **11**, 1860~1863(2001).

付録

A.1 付録の付け方

このフォーマットに従ってお願いします。付録は無理に付ける必要はありません。論文に直接書く必要はないが、参考までに載せておきたい事柄等がある場合のみ添付しましょう。